

料金別納郵便

住民自治の基礎

タウンプラス

町長が応対を拒絶するため、仕方なく全町民に向けた提言とした。

蘭越町への政策提言

この提言は、蘭越町の公益を目的として、5年間に2000時間超の労力と費用と責任を負担して行った汚職調査の結果をもとに作成しました。 蘭越町富岡 1035-3 野村一也
ご意見は 090-4836-4467 まで (本文中は「調査人」)

全公開

調査内容は
証拠を添え
webで公開
<https://sosei-council.org>

告発の構造

検索

政治判断が阻んだ

星野リゾートらんこし大湯沼

建物だけで20億円の投資提案

町民は優待価格で入浴可

実現可能だった町営スキー場の存続と星野リゾート大湯沼

町営スキー場

(星野リゾートに運営委託)

休憩舎

過疎債で更新したリフト

星野リゾート界

(国民宿舎跡地)

日帰り客向け観光施設

(チセハウス跡地)

公衆トイレ

町営駐車場

町民に知られない事実

蘭越町有地のチセハウス跡地は、2020年に活用が可能となったのに、いまだにそのことが広報されていない。

蘭越町が星野リゾートの投資提案を断り

正規民意の請願採択も反故にした経緯

12.12 星野リゾートは、蘭越町に対し、最初の開発提案をおこなった。

1.18 蘭越町は、北海道新聞を通じて、施設の老朽化によるチセヌプリスキー場の休止を検討していることを報じさせた。

2.6 星野リゾートは、1室4000万円、50室で20億円の投資を提案した。また、スキー場の運営も可能であることを伝えた。

3.4 スキー場の存続を求める請願と7566名の署名が提出された。**正規**

3.31 蘭越町は、スキー場の休止を決定した。

4.8 星野社長は、蘭越町を訪問し、提案の受け入れを熱望した。

6.10 星野リゾートは具体的な開発スケジュールを提示したが、当時の町長と金副町長（現町長）は後ろ向きな態度を示した。

6.28 蘭越町は星野リゾートの提案を断る選択をした。

9. 蘭越町と町議会はスキー場の存続を求める請願を採択した。**正規**

5.19 蘭越町は、国民宿舎雪秩父改築等検討委員会（委員長：金秀行 当時副町長）にて請願に反するスキー場の譲渡を検討し始めた。

蘭越町は、スキー場譲渡の第1回目公募を開始した。

蘭越町は、東京の大手人材派遣会社U社を譲渡先に選定した。

蘭越町は、U社に対する譲渡の白紙撤回を決定した。

12.8 蘭越町は、年末年始を挟んだ43日間で2度目の公募を始めた。

3.7 蘭越町は、譲渡額を5分の1に下げ、3度目の公募を開始した。

5.21 蘭越町はJ社への売却を決定し、蘭越町議会はそれを承認した。

6.13 蘭越町総務課長、北海道森林室、スキー場譲受人は、チセヌプリスキー場の権利譲渡に関する打合せを行った。ただし、その内容は黒塗りにより全て判読不能とされた。

9.22 道新の取材に対し、当事者は5年後のリフト更新に言及した。

10.28 蘭越町とJ社はスキー場施設と道有林賃借権の譲渡契約を締結。

12.16 J社は、富裕層向け事業を蘭越町に通知し、運営を開始した。

1. スキー場について数十件の苦情が寄せられた。（副町長談）

7.13 応対記録によれば、金町長は、チセヌプリスキー場に隣接する大湯沼自然展示館の運営をJ社に依頼した後、蘭越町議会にも根回しを済ませたことをJ社代表に報告した。

9.5 J社は、後志振興局に対し、スキー場事業を別会社に譲渡する予定があることを伝えた。その内容は蘭越町に送られた。

5.27 金町長は、取材に対し、プロポーザル提案と異なる「富裕層向け貸切スキー事業」だけを行うJ社を容認すると明言した。

11.25 J社代表は、調査人の取材に対し「こんなちっちゃいスキー場は無理」とリフトを更新する気がないことを明かした。

5.12 蘭越町は、写真も平面図も添えず、現状も賃料も明示しないわずか6行の文字列で、大湯沼自然展示館のプロポーザル型公募を開始した。調査人は、告発要旨を伝え、公募成立を阻止した。

状況証拠を読み解いた誰もが認定するであろう事実**蘭越町と議会は富裕層向け貸切スキー運営と転売計画を知りながら出来レースを行った**

大湯沼

金町長が内々でJ社に運営を依頼した施設



旧)自然展示館

自然探索テラス
(旧自然展示館)

残念な現実

金町長は**公募提案と異なる富裕層向け事業**を容認すると公言し、容認し続けている。

提案

- ・スキーレッスン主体
- ・早朝限定のパウダーオペレーション
- ・Laaxのようなスキー場
- ・リフトに3億円の投資

実際

**少数の富裕層向け
全日全山貸切りの
パウダースキー場**

星野リゾートは町営スキー場の運営を承諾していた
蘭越町がリフトの修繕、圧雪車の更新を負担するなら運営を受ける。

スキー場休止のプロセス

議会だよりと琵琶委員報告によれば、前町長が議会全員協議会に休止をしたいと報告をしたことと、**町政懇談会**でチセヌプリスキー場の運営継続の強い要望等がなかったことを理由として、町は休止を決定した。

非正規町政懇談会

琵琶議員は町営スキー場存続の方策を報告していた

総務・文教常任委員会での琵琶博之議員報告（2013.9.18）によれば

- ◎工事費のほぼ全額について過疎債が利用できる（負担3割）
- ◎リフト更新で運行経費を相当な削減できる
- ◎自衛隊からリフト使用料等の増額が期待できる

正規手続

事前談合による出来レースの疑い

1. 町長は「次の候補も来ている」などと言い、UT社に白紙撤回を促した。
2. 短期間の2回目公募で応募者がなかったこと理由に大幅な値引きをした。
3. 3回目公募の応募希望者に対し、リフト再開の条件を等しく伝えていない。
4. プロポーザル内容・選定プロセスを町民にはいっさい公開しなかった。
5. 譲渡決定後、運営と契約内容を打ち合わせた記録を1枚も残さなかった。
6. 譲渡契約書には、転売禁止条項さえ織り込まなかった。

転売禁止条項は、公有財産での転売ビジネスを抑止するために、町有地を移住者の住宅用地として譲渡する契約書にさえ含まれている。

事前談合による出来レースに蘭越町議会も絡んでいたか

7月6日の議事録によれば、金町長は自然展示館の運営をJ社に持ち掛けている。金町長「自然展示館の施設の利用も、前向きに考えていてほしい」と思っているし、議会にも話してありますし、やり方によって利用価値があるのなら、使ってもらえるように協議を進めていきたい。」

8月15日付『議会だより』によると、金町長はJ社から活用計画案を示されていた。

J社がスキー場を転売しようとしていることを蘭越町は知らされていた
蘭越町は、2018年9月時点でJ社の転売（再譲渡）意思表明を知られていたが、登山者との軋轢を解消する目的を含む公費パトロールを続けた。

議会もグル！？疑惑の証拠はゼロ評価、結果には改ざんの審査 **正規手続**

(2021.9.21) 蘭越町議会は、町長の汚職疑惑調査を求める陳情を不採択とした。

陳情に添えられた証拠を完全に無視し、審査結果では陳情の内容を改ざんした。

議会が不採択までに7か月をかけたため、立証が容易な背任罪は時効となつた。

さらに議会は、百条委員会による調査を求める陳情（2025.7.28）を門前払いとした。